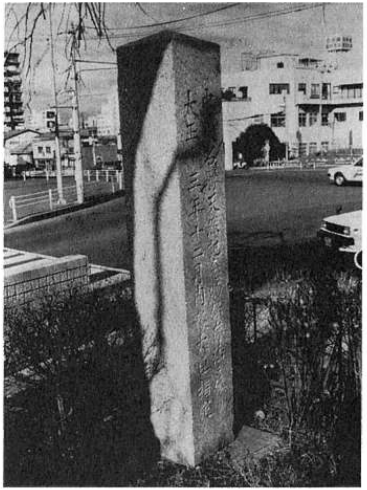
榴岡公園

石碑をたずね、木々とあそぶ。

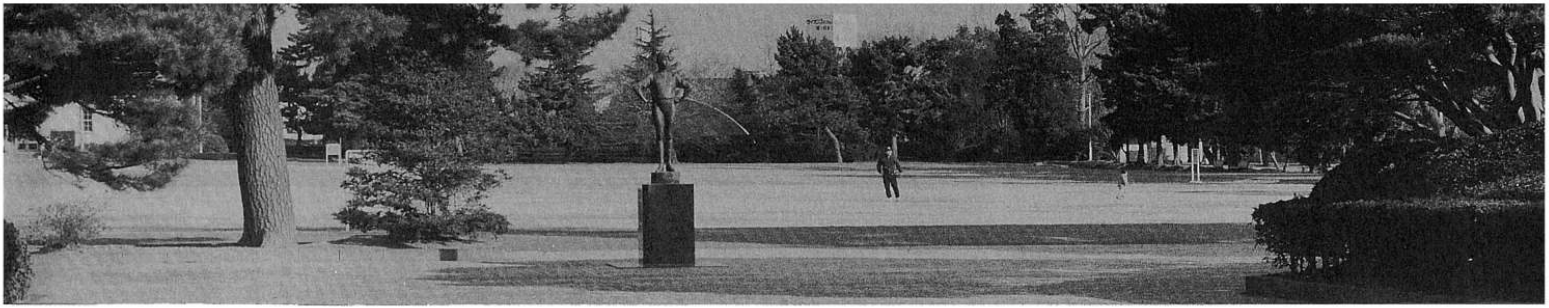
生まれた町、
育った町、
これからも暮らす町。
この町に
どんな人が
住んでいたのか―。
この町で
どんなことが
あったのか―。
遠くのことより、
そんな身近なことが
大切に思えてきた。
じぶんの町が
おもしろい。
みんなの記憶をたずねて、
集めて、つないでいく。
そうすると、
榴岡公園のものがたりが
できあがる。
世界でたったひとつの
ものがたり。
それが「地元学」。
住んでることが
もっと楽しくなる、
町との新しいつきあいが
はじまる。



いう。文治五年八月藤原泰衡が頼朝の軍勢を防いだ鞭楯はこの地をいう。伊達政宗も仙台城築城の候補地とした。寛文七年綱村は父公綱宗の請いにより天満宮を玉田ケ崎からこの地に移した。元禄二年五月には芭蕉が訪れている。元禄八年綱村は母公三沢初子の冥福のため釈迦堂を建て、馬場と的場を設け、京都から彼岸桜と枝垂桜千株をとりよせて集植し士民遊楽の場所とした。桜は枯衰し国名勝指定を解除された。

（『仙台の文化財』より）

榴岡公園は昔から花見の名所だった。



公園内にどんな木があるか それがわかると楽しさがちがう。

桜一千本を植えたのは1695年のこと。以後、文化年間の大火による桜の焼失、明治時代の歩兵第四連隊設置、大正時代の国の名勝指定、さらには仙台市の公園整備と300年間には実にいろいろなことがあった。そうした時の流れの結果がここに残った2701本の木なのだ。

全部で154種類の木があった

（樹木115種類・低木39種類）

この広い公園のなかのどこにどんな木があるのか。それがわかっただけで公園を歩く楽しさがグンと増すのじゃないかな……。こうして地元学講座の植生調査は始まった。区役所や公園事務所の方に教えていただきながら公園内を歩き回った。

まず調べやすいように、公園を32のブロックに分け、比較的高い樹木と、寄せ植えされているような低木とにわけて数えた。庭先などでよく見かけるものから、初めてきくものまでいろいろ。

樹木の本数は、2701本

低木は寄せ植えされているものが多いので、樹木だけを数えたが2701本もあった。榴ヶ岡に4代藩主綱村が

さすが桜の名所、360本の桜たち

藩政期から今日まで仙台の花見の名所というだけあって、やっぱり桜は本数が多い。しだれ桜が圧倒的本数である。

- ●しだれざくら……246本
- ●そめいよしの……48本
- ●やえざくら……33本
- ●ひがんざくら……23本
- ●やまざくら……5本
- ●さとざくら……4本
- ●にわざくら……1本

しだれ桜は花色によって、白しだれ桜と薄紅しだれ桜の2種に区別され、現在この古木は両種合わせて53本。また元仙台市長遠藤庸治氏が移入した遠藤桜（八重紅しだれ桜）も111本もある。

名にちなむつつじの種類は約10種類

「つつじがおか」というだけあり、つつじの種類は一番多かった。

- ●おおむらさきつつじ
- ●きりしまつつじ ●りゅきゅうつつじ
- ●どうだんつつじ ●くるめつつじ
- ●ひのできりしまつつじ
- ●さつきつつじ ●やまつつじ
- ●ひらどつつじ ●えぞつつじ など